

タブレット端末を活用した双方向型の支援について

【練馬区の取組】

不登校児童・生徒の状況

対象の児童は、現在、小学校第5学年である。第3学年の2学期から徐々に登校を渋るようになり、不登校となった。不登校の明確な原因は不明であるが、保護者からは学習が分からないことが要因の一つであると報告を受けている。また、第4学年の途中から、深夜までゲームをすることが増え、昼夜逆転の生活が続いている。

具体的な支援

対象児童は、当該校が令和3年9月に行った欠席者対象の放課後オンライン授業に参加し、毎日1時間、オンラインで学習を行うことができた。その結果を基に、11月に学級担任、SSW、保護者で面談を行い、「昼夜逆転の生活を改善するため、タブレット端末を介して朝の会に参加すること」を共有した。

面談後、対象児童は、週に1日程度ではあるがオンラインで学級の朝の会に参加するようになった。学級担任は、タブレット端末のカメラ機能を活用し、教室の大型モニターに対象児童の様子を映し、学級の児童と対面しているように映像を工夫した。学級の児童と顔を合わせることで、一緒に朝の会に参加している雰囲気をつくることができ、対象児童にとっての効果的な登校刺激となっている。学級の児童と一緒にその日の予定などを確認することもでき、登校する日が少しずつ増えてきた。

(例) ある日の朝の会の会話

担任「体育が5時間目だけど、どうする？」

本児童「…う～ん。行こうかな。」

担任「分かった。昼に迎えに行くね。」

級友「(手を振りながら)あとでね～！」

担任からは、級友と約束することで、登校できる日が増えたとの成果が報告された。



成果

オンライン朝の会を実施する前の対象児童は、登校しても別室で過ごすことが多かったが、本取組により、登校後に学級の児童と教室で過ごす時間が増えてきた。

課題

中学校への進学を見据え、対象児童への学習支援の充実が必要だと考えている。オンラインを活用した効果的な学習支援の方法を検討していきたい。